

交換留学体験記 ～派遣～

Outbound Exchange Program

「自分らしさを大切にすること」

藤井 陽子

経営学部国際経営学科

派遣先：リバプール・ジョン・モーズ大学（イギリス）

派遣期間：平成 21 年 8 月～平成 22 年 1 月



■フラットメイトと（写真中央：藤井さん）■

私は生まれて初めて日本を離れ、異国の地で半年間過ごしました。派遣留学で経験した全てがこの機会、この歳、この時代にしか経験できない事でした。今思うと、留学中に起きた出来事で私に影響を与えなかったものは一つもなく、どれも私の中の感情であれ、ものの捉え方、他人との付き合い方から自分の人生観まで、何かしらの変化を与えました。

初めて経験した異国の地というのは、国が違うというだけで不自由することはあまりありませんでした。リバプールは、海外に来ているということを感じさせないくらい、想像していたよりも住みやすいとてもいい街でした。私の暮らしていた寮から 10 分も歩けば中心街に行くことができ、そこでだいての日用品から洋服、食材などを揃えることができるので便利でした。街や土地自体はとても素晴らしいところだったので、留学生活は苦労が絶えませんでした。

まず、私は留学するまで両親と生活していたので、一人暮らしの経験が無く、自炊や部屋の掃除をするという習慣が全く身につけていませんでした。それを始め、初めのうちは何もかもが新鮮でいろんなことをしてやろうという真っ白いキャンパスの前で何を書こうかわくわくしながら考えているような気持ちでした。

しかし、その希望に満ち溢れた思いは、私はその環境に慣れるという段階で何度も壁にぶち当たることになりました。半年の留学生活は 1 週間程度の海外旅行とは訳が違い、新しいことに適応し、そこでの自分の生活を確立しないといけませんでした。それは想像以上に大変で、今まで異文化を体験したいと思っていた自分の興味本位だけでできた理想像は、あっという間に打ち崩されてしまいました。カルチャーショックを受けることを想定して挑んだにも関わらず、その衝撃は私にとってとても大きいものでした。その中でも私が一番悩んだのは「日本人すぎる性格」でした。日本で私は何事に対しても、「常に受け身」な立場に立っていました。加えて私は昔から人見知りの恥

ずかしがり屋で、人前で意見を言うことがすごく苦手でした。そんな性格のためか、大学の授業で行われたディスカッションの時間ではいつも発言することの恥ずかしさと英語が伝わるかという緊張で意見を言うことができませんでした。学生の意見を聞き、理解することで精一杯な私に、意見を発言するというのは容易にできることではありませんでした。その他にも、大学が始まり、現地の人と関わりだしてから、私はいろいろな悩みを抱えました。自分の英語力に対する不安にも襲われるようになりました。もちろん自分は英語ができない方だと自覚して望んだ留学なのですが、日本の他大学からの派遣学生と比較をするとどうしても、自分に魅力が無いように思えてくるのです。ホームパーティーなどに行くと、周りの人が楽しそうに会話をしているのを見ると、まるでのぞき穴からみんなを見ているような孤独感を感じる時もありました。

そんな中、他大学から留学している日本人の先輩と二人だけで話す機会があり、私は思い切って悩みを打ち明けました。私はその先輩にずっと憧れていたもので、どうしたら先輩みたいになれるのかを尋ねたのです。すると、先輩からは意外な返事が返ってきました。先輩はいつも私になりたいと思っていたと言います。先輩も実は現地の人ももっと深い仲になりたいと思っていたが、なかなかその距離を縮めることができずに悩んでいた事を私に打ち明けてくれました。とても、驚きました。私はてっきり自分だけが悩みを抱えているのだばかり思っていたのに、聞いてみるとみんな私の知らないところで悩みを抱えていたのです。その時に気づいたのが、みんなのしている世界はみんな一人一人違う、ということでした。また、個性の強い学生との交流を通して、自分はどの人とも違う、人と比較しても意味が無い、他の人の魅力は私には手に入れないもので、私の魅力は私にしかないものだと思うようになったのです。

それからというもの、私は他の人と自分を比較することを止め、自分の語学力の向上に、より積極的になることができました。現地の人と会話をする際、分からない単語や、難しい発音などをその場で質問することができるようになりました。その頃には、間違った英語を話すことへの恐怖感は無くなり、自然な会話を楽しめていたと思います。そのおかげで、留学生活の後半は現地の学生とより多くの交流ができたと思います。12 月末に現地の友達に「英語がすごく上達した」と言われた時はとても嬉しかったです。

この留学で、私の中の世界が一気に広がったのと同時に急に狭くなった気がしました。それは自分がこの半年間、異国の地で生活することにより得た自信から来るものだと思います。あんなに遠いと思っていたイギリスが、今やすごく身近に感じる事ができるし、自分の行動範囲が一気に増えたと思います。

今までの人生で、これほど自他共に自分の成長を身にしみて実感することができたのは今回が初めてです。

残りの学生生活では、この経験を活かし、自分の個性をこれからも大切にして生活していきたいと思っています。語学的能力を維持したいので、できるだけ英語を使える行事などに積極的に参加したいと思っています。いろいろなことに興味を持って行動していき、貪欲に吸収して自分のものにしたいです。また、3 年次からは就職活動も始まります。語学をさらに磨き、国際関係の仕事に就きたいと考えています。何事にもくじけず、妥協した人生を送ることの無いよう生きていきます。

「人生で一番濃い3ヵ月間」

青柳 友恵

芸術学部美術学科

派遣先：ボルドー美術学校（フランス）

派遣期間：平成21年9月～平成21年12月



■ラスコー遺跡のある町モンティニャックにて(写真左：青柳さん)■

私にとってフランスはテレビでしか見たことがなく、なにやらキラキラしたイメージのワインの国、というものであった。

現地に着くと驚きの連続。まず建物が違う。日本と異なる町中に広がる石造りの建物。まるで映画のセットに迷い込んだかのようにであった。

ホームステイ先の家族は私にいろいろなことを聞いてきた。姉妹はいるのか、日本はどんなところなのか、休日は何をするのか。そしていろいろなことを話してくれた。砂丘や海に連れて行ってもらったりもした。そのうち彼らだけでなくフランスに住む多くの人々は好奇心の塊であることに気付いた。

彼らは芸術が好きだ。ボルドーの市内には数多くの博物館、美術館があり、学生は無料で見学することができる。日本のアーティストとフランスのアーティストが合同で行う展示会に行ったのだが、非常に多くの来場者で賑わいをみせており、芸術への関心の高さを垣間見た。

ボルドー美術学校は、生徒数約400人で学生同士が大変仲が良く、しばしばホームパーティーをやり、交友関係を深めた。彼らは親切で私のつたない英語での質問に母国語でないにもかかわらず、丁寧に分かるまで教えてくれた。

私は今まで見ず知らずの他人に、特に言葉がうまく通じない人にここまで親切にしたことがあっただろうか・・・そもそも気にかけてすらいなかったのではないかと、ふと考えた。

九州産業大学で受けている講義の1つに確か中国人の女子学生が1人いたはずだが、彼女に話しかけたことはあっただろうか、助けてあげられることがあったのではないかと、言葉が通じないことを言い訳にしていたのではないかと、その時ようやく気付いた。すぐにボルドー美術学校の学生たちのように、積極的にとまではいかないかもしれないが、それでも彼らが手を差し伸べてくれたように私も見習いたいと思う。

ボルドー美術学校では、自分で1つテーマを決めてそれを自由に3つの表現方法で制作するという課題が出た。私は今まで課題という練習のような、技術を高めるための制作であるようなものだと思っ

ていた。しかし、こちらでは課題に対する姿勢がまったく違った。ボルドー美術学校の学生は、自分が一人のアーティストとして作品を作っており、作品には確かな意思と熱意が込められていた。講評の場で生徒がその作品において表現したかったことを講師達に熱っぽく一生懸命話す姿を見て、私は自分の番が来るのを恐れた。自分はそんなにまでして伝えたい感情をこの課題に込めたのだろうか。この課題は、胸を張って自分の作品だと言えるものだろうか。案の定、私は講師達の矢継ぎ早に投げかけられる質問に答えるので精一杯であった。彼らは私に尋ねる。何がしたいの、なぜそうしたの、どれが好きなの、なぜそれが好きなの？明確な理由をもち、そうである理由を説明できなければ不思議な顔をされた。

彼らの批評の仕方はどこをどう直せばいいというようなものではなく、好きか嫌いかというような感想を述べるものだった。感想を述べられたその時、やっとこれは自分の作品なのだという実感を持てたのだ。同時に今まで課題に対してなんと浅はかな考えをしていたのかと改めさせられた。

留学中にいくつかの町に旅行に出かけたのだが、アルビという小さな町の大聖堂は、今まで生きてきた中でこれほど迫力のある芸術を見たのは初めてだと思うほどすばらしく、壁から天井まで彫刻と壁画にびっしりと埋め尽くされた建築に、ただただ圧倒されるばかりだった。受付の人が日本語の音声ガイドを貸してくれ、見学しながら説明を聞くことができたが、そのガイダンスすら耳に入ってこないほど見入った。

フランスはやはり芸術の国だったのだ。この聖堂だけでそう思わせるほどに堂々としていた。おそらく写真やテレビで見ているだけでは、一生得られなかったであろう感動と衝撃を受けた。

もう1つ衝撃を受けた出来事がある。

ある日、私はフランス人に日本の今の天皇の名前を尋ねられた。しかし私は答えられなかった。情けないことに知らなかったのだ。それを告げると相手はひどく驚いた顔をして、どうして知らないのだと聞いてきた。日本の一番重要な人物の名前なのに、知らないわけがないだろうと。息が詰まる思いがした。

日本に生まれたからという理由で、当たり前のように私は日本人だと名乗ってきたが、この日初めて自分は一体何者なののだと思った。日本に対して関心を持ちもしないで他国に来ている自分を恥じた。その思いは日本に帰ってきた今も消えておらず、何をもって日本人というのか。今だその答えは出ておらず、模索し続けている最中である。

日本に帰って来て空港を出た瞬間に感じた侘しさにもこの息苦しさは似ている。それは3ヵ月過ぎた地を離れた寂しさだけではなく、フランスの自国の文化を大事にした結果である町並みと日本の風景を比べたせいもあるだろう。文化なくして国はあり得ない。しかし今の日本はどうだろうか。国とは何であるのか、どうあるべきなのか私は考え続けなければいけない。

過ぎてみればあまりに短い3ヵ月間、人と出会うたびに自分の不甲斐なさを知り、視野が広がるたびに自分の足元がおぼつかなくなるような日々だったように思う。しかし、それ以上の楽しさを感じ、優しい人たちと出会うことができたからこそ、充実した毎日を通すことができた。お世話になった人達に感謝しつつ、いまだに消化しきれない思いを噛み砕き自分の糧とするために、これからもこの思い出と向き合い続けていくのだろう。

交換留学体験記 ～受入れ～

Experience of Studying at KSU

「交換留学生として感じたこと」

ヤン ジョン
梁 智善

韓国・東国大学校からの交換学生

受入れ期間：平成21年4月～平成22年2月

受入れ学部：芸術学部



■ 留学中に制作した作品 ■

韓国から日本に来るようになったきっかけは何でしたか?と尋ねられると、私は東洋画を専攻しているので、日本画に接してみたいと思ったからと答えます。韓国の東国大学校と交換留学協定校である九州産業大学は、芸術学部が有名であると聞いていたので、九州産業大学への留学を志望しました。今振り返ってみると、日本で交換留学生として生活するようになったのは、高校2年生の時に、日本語能力試験のために日本語を勉強したのがきっかけだったかもしれません。

来日してから今まで、様々なことがいい思い出になりました。前期にはフランス、ドイツ、中国からの交換留学生と知り合い、それぞれ国の文化を感じることができました。また後期にはイギリスからの交換留学生と友達になり、英語が上達するようになりました。日本人だけではなく、交換留学生として来日している友達のおかげで、今まで韓国でできなかったことを体験することができました。

しかし、最初私が日本に来て感じたことは、日本人と韓国人の性格の違い、そして文化の違いでした。なぜ、こんなに近い国である日本と韓国が違うのか疑問がありました。私は、どう対処すればいいのか分からず、日本人の友達がこの先ずっとできないかもしれないという心配もたくさんありました。でもその心配は、ほんの1ヵ月間私が日本の文化や人々に慣れるまでの問題でした。大学生活に慣れ、日本語力も上がるにつれ、授業で顔を合わせる日本人学生とも親しくなりました。そして、最初の頃、日本の礼儀作法が韓国の作法とは違うこと、友達同士の接し方が韓国とは異なり、親しくなるまでに時間がかかることに戸惑いもありましたが、そういうこともお互い理解することができるようになりました。

留学中に日本人だけでなく、いろいろな国籍の学生と友達になれたこと以外によかったことは、韓国とは違う日本の「ゆっくりした生活」です。韓国の大学では、すべてのことが早くて 忙しく過ぎ去ります。韓国の社会と文化が、そして人々が何でも早いことを追い求めるから

だと思います。外国の大学なので、言語と授業のスタイルが違うという点では、難しいこともありましたが、全体的な大学生活には、ゆとりがありました。

韓国では中間試験と期末試験で一学期の成績が評価されますが、試験以外に課題としてレポートの提出がたくさんありました。しかし、日本では一学期にわずか一回きりの試験だけで、時間に追われるような授業ではありませんでした。どちらが良いかという答えられないのですが、勉強では韓国の学生がよく頑張っていると思います。日本の学生は、余暇の時間があるからこそ、大学での勉強だけではなく、自分が楽しみたい事を楽しめる時間があり、それはそれで良いことだと思いました。

また、お酒の文化や礼儀の面でも多くのことを学びました。ご飯を食べる時には器を手に持って食べなければならないということです。これは韓国とは完全に違う礼儀でした。聞いたことはありましたが、その違いを実際にみると、面白いと思いました。本とテレビで見たまの日本人の姿だったからです。日本の居酒屋には、飲み放題と食べ放題というものもありました。時間内であれば、注文する飲み物や食べ物の数に関係なく、無制限で飲んだり食べたりすることができるコースでした。

前期には、韓国の交流協定大学から研修に来ていた学生と九州産業大学の学生との学生交流会があり、韓国人も日本人も新しい友達できました。また、国際交流センター主催の新入留学生歓迎バスハイクでは、大部分が中国人留学生だったのですが、ネパール、ペルー、マレーシアなどの様々な国の留学生と出会う良い機会になりました。後期には、大学の食堂で学生たちが餃子と一緒に作り、試食後にはカラオケ大会がありました。また、立花小学校という小学校に行って子供たちと一緒に韓国の文化を学び、日本の子供たちから日本の遊びを学ぶ時間もありました。

日本の留学生生活は韓国に帰っても、絶対忘れられない思い出になると思います。韓国の食べ物と人々が懐かしくて韓国に帰りたいたいとも思いましたが、いざ帰る時になってみると、この国が私の国みたいな気がします。すべてのものが違って寂しかった日本の生活を充実して送ることができたのは、多くの友達と先生たちの助けがあったからです。韓国に帰ったら日本での経験をいかし、国際的な視野を持った学生、社会人になるように努力します。機会があれば日本へ来て仕事をすることもしたいので、今まで勉強したことが無駄にならないように日本語の勉強も努力し続けたいと思います。



■ スペースワールドにて交換留学生と ■

九州産業大学派遣留学案内

Guide of Studying Abroad

■ 交換留学 ■

イギリス



リバプール・ジョン・モーズ大学
<http://www.ljmu.ac.uk/>



リーズ・メトロポリタン大学
<http://www.lmu.ac.uk/>

フランス



リール・カトリック大学
<http://www.univ-catholille.fr/>



アビリン・クリスチャン大学
<http://www.acu.edu/>

韓国



東亜大学校
<http://www.donga.ac.kr/>



東国大学校
<http://www.dongguk.edu/>

中国



中国人民大學
<http://www.ruc.edu.cn/>

■ 芸術学部留学 ■

ドイツ



シュトゥットガルト造形美術大学
www.abk-stuttgart.de

フランス



ボルドー美術学校
www.mairie-bordeaux.fr

■ 交換留学スケジュール(2009年度実績) ■

- 9 月
10 月
11 月
12 月 ■ 派遣留学募集説明会
1 月 ■ 派遣留学生第一次選考試験(筆記試験)
2 月 ■ 派遣留学生第二次選考試験(面接)
3 月 ■ 派遣留学生決定
4 月
5 月 ■ 派遣留学手続き
■ 事前研修(5月中旬～7月中旬)
6 月 ■ ビザ手続き
7 月 ■ 出発前オリエンテーション
8 月 ■ 出発
9 月 ↑
10 月 交換留学
11 月 ↓
12 月
1 月 ■ 帰国
2 月 ■ 帰国後 事後研修
3 月
4 月
5 月 ■ 派遣留学報告会

九州産業大学では、国際文化学部、経済学部、商学部第一部・第二部、経営学部の学部生を対象とし、8月から翌年1月までの6ヵ月間、交換留学協定校に派遣しています。選考試験については、下記のとおりです。

■ 英語圏(書類審査、TOEFL ITP、面接)

■ フランス、中国、韓国(書類審査、語学能力試験、面接)

英語圏に留学を希望する方は、TOEFLやIELTSのスコアアップを目標に取り組んでみましょう。

■ TOEFL <http://www.cieej.or.jp/toefl/toefl/register.html>

■ IELTS <http://www.eiken.or.jp/ielts/index.html>

また、芸術文化交流を目的とし、芸術学部の学生を対象にドイツとフランスへ学生を派遣しています。ドイツへの派遣期間は10月から翌年2月までの5ヵ月間、フランスへは、隔年で9月から12月までの3ヵ月間派遣しており、次回は、平成23年度に派遣予定です。

募集時期、選考内容等については、お気軽に国際交流センターまでお問い合わせください。

留学生会から新入生のみなさんへ

Greetings from International Student's Union



平成21年度九州産業大学留学生会会長
洪 亮 (中国)

新入留学生の皆さんのご入学を心よりお祝い申し上げます。

私は、平成21年度九州産業大学留学生会会長の洪亮と申します。

皆さんが、入学すると同時に私も皆さんと同じように希望や夢を抱いて、新入社員として、働いているはず。四年間の大学生活は長かったようであったという間でした。大学生活は、実に「今しかない」期間だと思いますし、自分の活動を自由に決めることができる場所は「大学しかない」と思います。希望や夢を抱いて厳しい受験を乗り越え、合格を果たした皆さんには、この九州産業大学で実りある生活を送ってほしいと思います。

私たち留学生会では、故郷を離れた留学生同士が励ましあい、それぞれの留学の目的を忘れずに充実した留学生活を送れるよう、様々な交流イベントを企画しています。

大学生活においては、物事を自分の意志で決定する場面が多くあると思います。是非、留学生会が主催する行事に積極的に参加してください。友人や先輩などができ、視野を広げ、自分自身が成長していくチャンスだと思います。

最後に、皆さんが充実した有意義な大学生活を送り、自分の夢が実現できるよう、心より願っております。



平成21年度留学生会役員



香椎祭にて模擬店出店



福岡県留学生会主催のサッカー大会

九州産業大学留学生会

九州産業大学留学生会は、平成2(1990)年4月に留学生相互の親睦と友好を深め、勉学に励み、国際交流に寄与することを目的に作られた在籍する留学生のための組織です。おもな活動としては、新入留学生バスハイク、異文化交流、ボウリング大会、大学祭での模擬店参加、日本語弁論大会への参加、小学校との交流、地域住民との交流などがあります。

留学生会では、留学生のみなさんが楽しめるよう有意義な活動を目指して、計画を練っています。留学生会を通じて、留学生相互の親睦をはかったり、貴重な情報を共有したり、さまざまな体験ができると思います。

日本語弁論大会

Japanese Speech Contest

普段なかなか聞くことのできない留学生の思いが一堂に！

平成21年11月28日(土)、2E307番教室において「留学生による日本語弁論大会」が開催されました。前年度に引き続き、今回2回目の開催となった日本語弁論大会には、13人の留学生が発表を行いました。留学生の観点から、日本に対する驚き、発見や、自国の紹介、独自の考え方、意見などについて、幅広いテーマで発表があり、とても充実したものとなりました。

留学生の訴えかけるような真剣な弁論やユーモア溢れるスピーチに、会場では時に感動が生まれ、時に笑いに包まれました。



■ 王 丹 (中国 / 国際文化学部国際文化学科)
「私は一人ではありません」



■ 那 佳 (中国 / 国際文化学部国際文化学科)
「フリーマーケットでの出会い」

奨励賞



■ 李 正壹 (韓国 / 国際文化学部国際文化学科)
「幸せの窓を開ける鍵」

オーディエンス賞



■ 梁 林 (中国 / 商学部第一部商学科)
「新エネルギー源の開発」



■ 卞 美花 (中国 / 商学部第一部商学科)
「日本に来て感じたこと」



■ 陳 玉峰 (中国 / 商学部第一部観光産業学科)
「アルバイトから学んだこと」



■ 洪 亮 (中国 / 商学部第一部観光産業学科)
「すぐに謝る日本人と謝らない中国人」
～「謝り」から見る文化の違い～

優秀賞



■ テオ チュイ ウェン(マレーシア / 経営学部国際経営学科)
「アルバイトから学んだこと」



■ マーティン ブランド (イギリス / 国際文化学部)
「好きなスポーツ」



■ ジェームズ シュスミス (イギリス / 国際文化学部)
「私が住んでいた村」



■ 陳 斯斯 (中国 / 国際文化学部)
「日本語の面白さ」

最優秀賞



■ 鄭 智汎 (韓国 / 芸術学部)
「旅行」



■ 梁 智善 (韓国 / 芸術学部)
「韓国の大学のお酒文化」



■ 日本語弁論大会風景



■ 日本語弁論大会発表者

今回は、数ある発表の中から、中国から日本に留学するまでの経緯と、その後の自身の成長について語った中国出身、王丹さんによる発表を紹介します。

■ 私は一人ではありません ■

～人生は人と人との巡り合わせ～



■ 王丹さん (写真前列中央)
(中国 / 国際文化学部国際文化学科)

2006年は、私の人生のターニングポイントでした。

突然、母が私を外国へ留学させたいと提案し、父の強い反対に遭いました。父と母の論争の中で、私は広い海の真ん中に漂う一隻の小舟にいるようで、どうしたらよいか分かりませんでした。実は、私も異国の生活に憧れていましたが、父が怒ることを恐れ、留学したいと切り出す勇気がありませんでした。父の気持ちが変わるのを黙々と祈りながら待つしかありませんでした。

しかし、時間がどれだけ経っても、父と母はお互い一步も譲らないまま、留学をどうするか決めなければならない最終期限が迫ってきました。父はついに妥協し、留学に出発する前の晩、私にこう言いました。「あなたは今までずっと悠々とした生活を送り、ご飯を作ることはできず、お茶碗も洗わないで、洗濯もできない。何もできない。外国に行ったら、あなたを心配する人は傍にいない、あなたは自分一人だ。きっと我慢できず、逃げ帰ってきて、恥ずかしい思いをすることになるだろう。その時になっても、お父さんはあなたの面倒を見ないからな！」母が支持してくれたのと比べ、父は意外にも私を冷たくあしらったので、私はとても悲しかったです。

最初、私が日本に来た時、確かに不便な点はたくさんありました。言葉や文化の違いにも困惑しました。しかし、がっかりしたまま逃げるように帰国したくもなく、私は本当にどうすればよいか分かりませんでした。その上、日本に着いて間もない頃、私は一人で暮らすのが怖くて仕方ありませんでした。「神は一枚の扉を閉じて、あなたのために一枚の窓を開ける。」という言

葉がありますが、私はこの言葉にとっても感銘を受け、苦しくても頑張ろうという気持ちになりました。また、色々な人達が私に親切にしてくれました。

道に迷った時、日本のおばあさんが、わざわざ私が住んでいるところまで付き添って案内してくれました。電車の乗り換えがよく分からない時、駅員さんが丁寧な説明をしてくれました。日本の同級生も根気良く私の下手な日本語を聞いてくれ、さらに、私に家族を紹介してくれるほど親しくなりました。

私は、家族のもとを離れたことにより、よき師、よき友に出会うことができ、成長することができたと思います。私が大学に通い始め、まだ友達とも親しくなかった頃に、急にお腹が痛くなって学校へ行くことができなくなったことがありました。友達は、学校に来ない私を心配して電話をかけてくれ、私の体調が悪いことを知り、私の家をわざわざ探して私を見舞ってくれました。また、私に一杯の生姜湯を届けてくれました。あのお碗の生姜湯は、真冬に着る綿入りの服のように、今もずっと私の心を温めてくれています。見舞ってくれた友達が帰り際に、「外国で一人生活する時は、自分で自分のことをしっかり管理しないと駄目よ。」と言い聞かせてくれました。それからというもの、私は後悔することがないように自分の健康をしっかり維持し、のびのびとした生活をしようと思うようになりました。なぜなら、私を心配してくれる友達がいてくれるからです。

それから、ある先生に出会い、日本語が下手で大学生として何をしたらよいか分からない鈍感な私に対して、たくさんのアドバイスや、手伝いをして下さったことが忘れられません。先生の激励の全てが、今日の私がこうして大学生を続けられる最大の糧になっています。

大学二年生の時から、私は一生の親友と一緒に暮らしています。初めはただ仲の良い友達関係でした。しかし、彼女の自分への自信、強靱な意志と高い学力は全て私にないもので、私は彼女のように多くのことを学び努力していきたいと少しずつ思うようになり、彼女が私の目標になりました。

私は「人生は巡り合わせによって、生き方や考え方、価値観が変わって来るのだ」とつくづく感じるようになり、今ではたとえ失敗したとしてもそれを「失敗は成功のもと」と楽観的に考えることができます。日本で出会う人、経験することの全てが私の人生の中で年輪を重ねて、はっきりと私を形作っていると思います。私は今、父に向かってこう言いたいです。

「私は一人ではありませんから、辛いことがあっても逃げ出しません。私は日本で成長して、とても充実した生活を楽しく送っています。」

手作り餃子懇親会

Dumplings cooking party



■ ネパール餃子「モモ」 ■

平成 21 年 12 月 12 日 (土)、中央会館 1 階学生食堂にて留学生と日本人との交流を目的とした手作り餃子懇親会を開催しました。同日、午前中に中国語発表会があったため、今回、初めて中国語同好会「悟空」と共同企画・開催しました。

中国は「水餃子」、ネパールは「モモ」、日本は「巻き寿司」の 3 チームに分かれ、各国メンバー主導のもと、留学生が日本人に餃子の生地の捏ね方を、日本人学生が留学生に巻きずしの巻き方を教えました。留学生の中には、頻りに母国の料理を作っている学生も多く、その手際の良さ、動きの早さに日本人学生はビックリしていました。

いざ試食になり、食欲をそそる料理を前に、参加者の箸が進みます。中国の水餃子はモチモチとした食感で食べ応え充分。モモは、中の肉汁とスパイシーなソースがマッチし食欲をそそります。巻き寿司には、留学生は巻くのに一苦労していたものの、巻くと、すぐに食べられるその手軽さを楽しんでいました。お正月に餃子を食べる習慣のある中国の留学生にとっては、ちょっと早い日本でのお正月になりました。



■ 餃子づくりを楽しんでいる参加者 ■



■ 中国語で歌を披露する「悟空」のみなさん ■

引き続き行われたカラオケ大会では、留学生は日本語で歌うというルールに基づき、事前にエントリーした留学生が、日本語の歌を披露。堂々と流暢に歌う姿には、日本人学生も驚いていました。コブクロの「桜」を歌った韓国出身の李正壹イ・ジョンイルさんが多くの観客からの評価を得て優勝。最後に、悟空会のメンバーが、日本語の歌を中国語で歌い、留学生と一緒に合唱する等、大いに盛り上がりました。

参加者からのコメント

長 陽加里さん

(国際文化学部国際文化学科)

「始めは留学生のパワーに圧倒され、なかなか馴染めずにはいました。けれど、留学生達は人見知りすることなく、私にも話しかけてくれ、カラオケ大会が始まると一緒に盛り上がり、歌ったりしていました。普段、あまり触れ合うことのない留学生と触れ合うことができ、とても楽しい時間が過ごせました。こういう行事をもっと多くの留学生、日本人学生に知ってもらいたいと思いました。」

張 暁宇さん

(中国 / 国際文化学部国際文化学科)

「餃子は中国の伝統食品であり、中国人が、みな大好きな主食です。中国の各地域では、様々な餃子が食べられています。日本では、よく焼き餃子が食べられますが、中国人は水餃子を好みます。留学生の先輩達と一緒に餃子を作りながら話をし、勉強の方法や物の考え方などを教えてもらいました。今まで話したことのない日本、ネパール、韓国の人たちと友達にもなりました。今回、餃子懇親会に参加して、すごく楽しかったです。」

シュレスタ モティ プラサドさん

(ネパール / 経済学部経済学科)

「私は、今まで大学に入学して寂しいと感じたことはありません。それは、学部の勉強だけではなく、多くの留学生と一緒に行事に参加し、活躍できてとても大学生活に満足しているからです。今回の餃子懇親会では、日本をはじめ、いろいろな国々の文化を学ぶことが出来ました。自分の国のモモ(スパイス餃子)のことを他の国々の留学生、多くの日本人に紹介し、一緒に楽しむことができました。国によって文化、習慣、人々の考え方が違いますが、皆、同じ家族の一員のように一緒に活動できてよかったです。」

留学生の四季

Quarterly Journal of International Students

本学では、12カ国 393人（平成21年5月1日現在）の留学生が、遠く故郷を離れ、それぞれの目標に向かって勉学に励んでいます。また、本学では、留学生会が組織されており、留学生同士、日本人学生、地域住民の方々との親睦を深めるため、様々な交流活動を実施しています。



■ 新入留学生オリエンテーション
学部 平成21年4月2日(木)
大学院 平成21年4月3日(金)



■ 香椎祭
平成21年10月31日(土)～11月4日(水)



■ 留学生定例総会
平成21年4月27日(月)



■ 日本語弁論大会
平成21年11月28日(土)



■ 新入留学生懇談会
平成21年5月15日(金)



■ 手作り餃子懇親会
平成21年12月12日(土)



■ 新入留学生歓迎バスハイク
(スペースワールド・いのちのたび博物館)
平成21年5月17日(日)



■ 留学生送別会
平成22年3月12日(金)

小学校訪問

Elementary school visit

■ 香椎小学校 ■

平成 21 年 11 月 12 日 (木)、本学留学生 6 名が香椎小学校を訪れ、3、4 年の小学生と交流しました。留学生は母国の言葉や食べ物、日本とは違った文化を小学生に紹介しました。みんな興味津津に耳を傾け、小学生から、日本の好きな食べ物や、日本に来て驚いたことなどについて留学生に様々な質問をしていました。

小学生による歌の合唱もあり、留学生は小学生と一緒に竹馬や折り紙を初めて体験し、お互いに理解を深める有意義な交流となりました。

■ 留学生が初めて体験する日本の遊び



■ マーティン ブランドさん (イギリス)



■ 左: 金 廷律さん (韓国)
右: アーロン ブラウンさん (アメリカ)

■ 留学生が熱く語る母国の文化



■ 張 鵬飛さん (中国)



■ シュレスタ モティ プラサドさん (ネパール)

■ 香椎小学校での交流を終えて



■ テオ チュイ ウェンさん (マレーシア)

「私は、子供たちとお互いの自国について様々なことを教え合い、今までよりも更に日本の子供たちの気持ちが理解できるようになりました。今回の小学校での国際交流によって、子供たちと一緒に大切な時間を過ごせたことは、私にとって大きな経験となりました。今後も機会があれば是非、様々な国際交流に参加したいと思います。」

■ 立花小学校 ■

平成 22 年 1 月 27 日 (木)、本学留学生 8 名が立花小学校を訪れ、3～6 年の小学生と交流しました。

小学生は、訪問した留学生の国について事前によく調べ、その際に感じた疑問等を留学生に直接質問し、理解を深めていました。また、小学生が考えた創作遊びを一緒に楽しみながら交流を図っていました。小学生にとっても、留学生にとっても、貴重な国際交流の場となりました。

■ 留学生と小学生との交流会



■ 左: ジェームズ シュースミスさん (イギリス)
中央: テオ チュイ ウェンさん (マレーシア)
右: 洪 亮さん (中国)



■ 左: ゲンティ ヴァンアンさん (ベトナム)
中央: 陳 斯斯さん (中国)
右: マーティン ブランドさん (イギリス)



■ 左: 鄭 智洸さん (韓国)
右: 梁 智善さん (韓国)



■ 小学生が作成したプログラム

■ 立花小学校での交流を終えて



■ 鄭 智洸さん (韓国)

「自分の国、韓国の文化を一生懸命調べてくれたことにとても感動しました。立花小学校では韓国の小学校との交流を毎年実施していたようですが、両国の歴史の問題とインフルエンザの影響で、2年間交流が中止されたと聞いて本当に切なかったです。両国が様々な問題を抱えていても民間では深い交流を続けなければならないと思います。」

平成21年度国際交流の歩み

The Chronicle of KSU International Exchange in 2009

平成21年度もアメリカをはじめ、中国・韓国の大学から学生・教職員の受入れ・派遣を行っています。この学生交流・教員交流・学術交流を通して、交流協定締結校との友好の絆は、ますます深まりました。なお、21年度の主な国際交流の実績は、以下のとおりです。

■ 受入れ ■

■ 天津大学(中国)

日程：平成21年5月20日(水)～5月23日(土)

目的：学術・教員交流のため

受入れ：教員2人

李 佳 教授
張 冠偉 副教授

■ シアトル大学(アメリカ)

日程：平成21年6月22日(月)

目的：日本の文化とビジネスに関する理解を深めるため

受入れ：学生26人・教員3人

Kim Ben 教授
Reid David 教授
Kim Jeeyoung 教授



■ シアトル大学 ■

■ 忠南大学校経商大学(韓国)

日程：平成21年6月26日(金)～6月30日(火)

目的：学生・教職員交流のため

受入れ：学生27人・教職員6人

柳 東民 教授
李 炳采 教授
李 徹植 教授
崔 學洙 教授
李 榮蘿 職員
李 永熏 職員

■ 蔚山大学校デザイン大学(韓国)

日程：平成21年7月19日(日)～7月28日(火)

目的：学生・教職員交流および集中講義受講のため

受入れ：学生40人・教職員3人

全 聖福 教授
宋 海泳 助教
李 知燕 職員

■ 東西大学校デザイン学部(韓国)

日程：平成21年7月21日(火)～7月25日(土)

目的：学生・教員交流のため

受入れ：学生28人・教員2人

李 明姫 教授
朴 常炫 教授

■ 上海工程技術大学芸術設計学部(中国)

日程：平成21年7月26日(日)～8月1日(土)

目的：学生・教職員交流及び芸術学部講義受講のため

受入れ：学生11人・教職員3人

王 如儀 教授
金 鶴 教授
何 志琴 職員

■ 蔚山大学校デザイン大学(韓国)

日程：平成21年12月17日(木)～12月19日(土)

目的：国際交流に係る協議のため

受入れ：教員3人

韓 仁燮 国際交流院長
金 世元 デザイン大学長
全 聖福 教授

■ 派遣 ■

■ 蔚山大学校デザイン大学(韓国)

日程：平成21年8月31日(月)～9月2日(水)

目的：蔚山大学校デザイン大学・九州産業大学芸術学部国際交流10周年記念行事のため

派遣：教員4人

河地 知木 芸術学部長
黒江 克彦 教授
飯高由希雄 教授
丸尾 繁夫 教授

■ 蔚山大学校デザイン大学・東西大学校

デザイン学部(韓国)

日程：平成21年8月31日(月)～9月5日(土)

目的：学生・教員交流のため

派遣：学生19人・教員2人

井上 貢一 准教授
星野 浩司 准教授



■ 韓国・慶州博物館にて ■

■ 中国人民大学・長沙学院・上海財経大学(中国)

日程：平成21年9月1日(火)～9月8日(火)

目的：交流協定校等実地視察のため

派遣：教職員2人

石川 泰成 准教授
大藤 高志 国際交流センター事務職員

■ 東亜大学校・培材大学校・東國大学校(韓国)

日程：平成21年9月8日(火)～9月10日(木)

目的：交流協定校等実地視察のため

派遣：教職員2人

長谷川由起子 准教授
阿部 秀哉 国際交流センター事務室長

■ リバプール・ジョン・モーズ大学(イギリス)

リーズ・メトロポリタン大学(イギリス)

ヨーク・セント・ジョン大学(イギリス)

リール・カトリック大学(フランス)

ボルドー美術学校(フランス)

日程：平成21年9月22日(火)～10月3日(土)

目的：交流協定校等実地視察のため

派遣：職員1人

田島 由里 国際交流センター事務職員

■ 忠南大学校経商大学(韓国)

日程：平成22年3月18日(木)～3月20日(土)

目的：学生・教員交流のため

派遣：学生6人・教員2人

千 相哲 教授
浅川 哲郎 准教授

■ 天津大学(中国)

日程：平成22年3月23日(火)～3月27日(土)

目的：学術・教員交流のため

派遣：教員2人

松岡 剛志 准教授
緒方 将人 准教授

■ 上海工程技術大学芸術設計学部(中国)

日程：平成22年3月17日(水)～3月19日(金)

目的：国際交流に係る協議のため

派遣：教職員3人

河地 知木 芸術学部長
百瀬 俊哉 准教授
大藤 高志 国際交流センター事務職員

■ 今号の表紙 ■

JUNCTIONとは2001年に国際交流センター報として発行された折りに多文化が合流しあうようにと命名されました。

今回の表紙は、平成21年度派遣留学生 川淵浩一さんが北京市郊外の世界遺産十三陵の手前にある神道(墓参道)にて撮影。中国最大の皇帝陵墓で、800メートルもある明参道の一部には巨大な柳の木が道の両脇にあり、いくつもの中国に生息していない動物や他国の兵士の石像が並んでおり、往時の皇帝権力の強大さを見る事が出来ます。

編集・デザイン/芸術学部デザイン学科 鶴田 理紗

発行/九州産業大学国際交流センター

〒813-8503 福岡市東区松香台 2-3-1

TEL (092) 673-5588 FAX (092) 673-5611

掲載している教職員の職名は平成21年度のものです。